

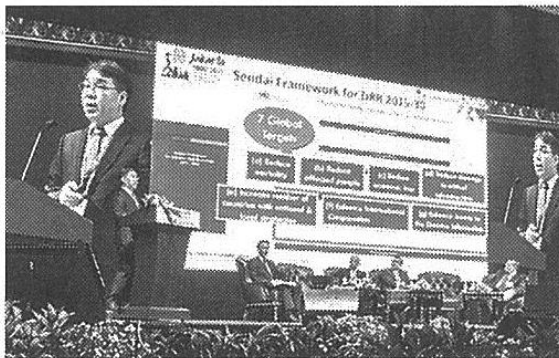
日本の建設コンサル
技術系が相次ぎ講演

FIDIC年次大会

国際コンサルティング・
エンジニア連盟（FIDIC）
が1～3日、インドネ
シア・ジャカルタで開いた
17年の年次大会のセッション
で日本の建設コンサルタ
ント会社の技術系社員が相

次ぎ講演した。大会のテーマは「インフラのレジリエンス」で、災害大国・日本の最新の防災・減災関連技術の研究成果に各国から注目が集まった。

登壇したのは、日本工営の櫻庭雅明中央研究所総合技術開発第1部部长代理、オリエンタルコンサルタンツグローバルの高橋亮司都市地域開発・防災部副部長。櫻庭氏は、東日本大震災の津波による被害状況とそ



講演する高橋オリコンサル
グローバル都市地域開発・
防災部副部長

の後の津波対策の取り組みや、日本工営が開発した建物の倒壊やがれき浮遊物を考慮した数値シミュレーション、仮想現実（VR）を活用して建物内外の津波来襲状況を体験できるシステム、拡張現実（AR）を使って従来のハザードマップの上に各種情報を重ね合わせるなどが可能な次世代型ハザードマップを紹介した。日本工営はグループのインドコージェイインターナ

ショナル（IKI）とBDPと共に会場内にブースも開設し、VRとARのシステムを実演した。

高橋氏は、開発途上国で防災投資を推進するという観点から、過去に実施したプロジェクトでの具体事例を交えながら、リスクアセスメントの重要性とその効果を解説した。

年次総会には100カ国以上から会員600人以上が参加した。